

令和6年4月19日 受付

第 号

相互提案型協働事業実施報告書

令和6年3月31日

(宛先) 座間市長

団体 住所 座間市小松原 2-44-1-808

名称 アートステージ

代表者名 代表 小山 透



市 担当課名 教育部 生涯学習課

所属長 吉野 芳絵



次のとおり報告します。

1 事業名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
2 事業形態	<input checked="" type="checkbox"/> 市民活動団体提案協働事業 <input type="checkbox"/> 市提案協働事業
3 選考年度	令和4年度選考 (令和5年度実施)
4 報告期間	令和5年 4月 1日 から 令和6年 3月31日 まで
5 事業費	509,263円 (うち座間市支出分 500,000円)
6 事業概要 (事業内容等を450字以内で御記入ください。) ※詳細な報告は、別紙事業評価シートに御記入ください。	心身に何らかしらのハンデのある人、不登校や引きこもりでコミュニケーションが苦手な人など、支援が必要な人たちを対象に、アートを通して個性を発揮し自信を持って社会参加できるように、出前アート体験講座とざまユニバーサルアート展を開催した。 出前アート体験講座は、講座メニューを充実させて、市内福祉事業所や小学校特別支援学級等に出かけ、昨年の160%増の13回アート体験講座を実施。さらに児童参加増を目的に夏休み1日アートワークショップを実施した。 ざまユニバーサルアート展は、アート体験講座での応募訴求と周知徹底を図り、昨年の187%増の応募者拡大を実現した。選抜作品による巡回展も市役所の他に新たに企業ショーウインドウ、民間ギャラリーにも展示し、市民への啓蒙に注力した。見に来れなかった人のために作品紹介動画と展示会紹介動画を制作し、市役所及び団体のホームページに掲載した。
7 添付資料	<input checked="" type="checkbox"/> 収支決算書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業詳細報告書 <input checked="" type="checkbox"/> 事業記録写真 <input checked="" type="checkbox"/> チラシなどの広報資料 <input checked="" type="checkbox"/> 作成した冊子などの資料 <input type="checkbox"/> その他 ()

相互提案型協働事業評価シート

事業名	支援が必要な人たちへのアートコミュニケーション事業
-----	---------------------------

1 協働事業の成果

協働事業により設定した事業目的が達成できたか、市民ニーズに効率的、効果的に対応できたかなど、事業の成果について評価します。

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
事業の達成度	<p>所期の目的は、十分達成できましたか。</p> <p>出前アート体験講座、夏休み1日アートワークショップ、ざまユニバーサルアート展、作品紹介や展示会紹介動画などの施策を全て遂行し、参加者拡大の目標も十分に達成することができた。</p>	<p>支援が必要な方にアート体験やアート展を通じて個性を発揮して自信をもって社会参加できる機会を提供するという目的は達成した。</p>
事業成果・効果	<p>事業を実施したことによる成果・効果について、具体的に記入してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出前アート体験講座は講師日程も入れて選択しやすいように改変し、早期働きかけを行った結果、要望が増え、昨年8回に対して13回実施。参加者も150人を超え、160%増を実現し各地で高い評価を得た。 ・今回新たに児童の参加拡大を期待して、パラソルアート体験講座として保護者同伴の夏休み1日アートワークショップを開催した。参加者は8組の親子に留まり費用対効果としては課題が残ったが、親子の良いふれ合いの場として参加者からは大変好評だった。 ・ざまユニバーサルアート展は昨年45点の応募に対し84点の応募があり、目標以上の187%を達成。作品にスポットライトを当てた展示会と表彰式をハーモニーホール座間で実施。5日間で380名を超える来場者があり、その後市役所市民サロンコーナーに加え、新たに城南信用金庫相武台支店でも巡回展を実施し、多くの市民の方に作品を見てもらえる機会を提供できた。 ・展示会に来られない方のために作品紹介動画と昨年度はできなかった展示会紹介動画を制作し、市のYouTubeや団体のホームページにも掲載し、広く市民へのアピールにつなげることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前アート体験講座は13回実施 ・夏休みアート体験講座は8組の親子参加 ・アート展は84件の応募 <p>昨年の出前アート体験講座8回、アート展応募数45件と比べ、参加者が大幅に増加した。今年度は、2年目ということもあり、本事業についての認知度、信頼度の確立が図れ、本事業への参加者、参加団体、協力団体・企業等が増加したと考える。本事業に関わる方の増加は、大きな成果・効果を感じるとともに、本事業の需要の高さを感じた。</p>

2 協働事業における取組

事業プロセスにおいて、計画段階から完了まで良好なパートナーシップが発揮されたかについて評価します。

項 目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
目的・目標の共有	<p>十分な協議や調整により、事業目的や課題に対する共通の認識を持つことができましたか。</p> <p>本事業は障がいのある人、不登校や引きこもりの人などが対象者のために、都度慎重な対応が発生し、言葉の表現や確認事項などについて協議する機会が多かった。それによって課題が明確になり、共通の認識を双方で持つ事ができた。</p>	<p>対面での打合せや電話やメール等での調整を頻繁に行った。時には、見解の相違があり、実施に向けて調整に膨大な時間を要することがあった。</p>
事業の進行管理	<p>進捗状況について情報交換を行うとともに、必要に応じてスケジュール等の見直しを行うことができましたか。</p> <p>スケジュール順守を基本に、都度前倒しに準備を進めたので、出前アート体験講座は予定通り進行できたが、アート展の場合は借用する展示空間側の制限もあって思惑通りにいかない場合もあった。都度情報交換をして柔軟に対応し、最終的には目的に沿った展示会を実施することができた。</p>	<p>互いの進捗状況の報告をメールや電話で頻繁に行い、必要に応じて、対面での打ち合わせを行った。突発的な課題が生じたこともあったが、スケジュール等を調整し、課題を解決しながら事業を進めることができた。</p>
対 等 な 関 係	<p>協働の相手として、対等な立場で協議することができましたか。</p> <p>メールでのやり取りが多かったのですが、意思疎通ができない部分もあったが、お互いの立場で主張すべき協議はできたのではないかと思います。</p>	<p>事業を遂行する上で、団体から様々な要望を受けることがあったが、対等な立場であることを意識しながら、互いに妥協することなく協議し、妥協点を見出す努力をした。</p>

相 互 理 解	相手の立場や組織の特性の違いなどを理解し、互いに補える関係が築けましたか。	
	後半、市の業務過多により一部市の業務を補完したが、一方こちらで作成した資料を徹底チェックしていただきミスの低減につながり、それぞれの立場で協力しあえたのではないかと思う。最終的には事業を無事に推進することができた。	団体が通常行っていることでも、市の事業という観点から、団体の希望通りに行えない部分が生じ、事務や手続きに時間がかかってしまうことはあった。しかし、団体に繰り返し説明をし、理解してもらうことにより、最終的には事業を実施できた。

3 協働事業における役割分担

役割分担は適正であったか、役割を果たすことができたか、相乗効果を発揮することができたかなどについて評価します。

役割分担の内容	役割分担の内容を具体的に記入してください。	
	<p>(団体の役割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画立案、全体日程作成、事業推進 ・出前アート体験講座の内容と講師調整、日程調整、実施 ・必要なチラシ、ポスター作成 ・アート展の応募要項/申込書の内容、作成 ・アート展審査会の実施、賞品の手配、設営準備、実施、表彰式の実施、搬出返却対応 ・巡回展の手配、設営準備、実施、搬出返却対応 ・作品紹介動画、展示会紹介動画の作成、ホームページ掲載 	<p>(市の役割)</p> <p>本事業に係る申込受付</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みアート体験講座受講者受付 ○アート展展覧申込の受付 <p>本事業に係る会場・備品の手配</p> <ul style="list-style-type: none"> ○夏休みアート体験講座 <ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニーホール座間大会議室 ・ハーモニーホール座間中会議室 ○ざまユニバーサルアート展 <ul style="list-style-type: none"> ・ハーモニーホール座間ギャラリー ・ハーモニーホール座間常設展示室 ・ハーモニーホール座間大会議室 ・市民サロン <p>本事業に係る広報及びチラシ配布等の協力</p> <ul style="list-style-type: none"> ○市内公共施設、市内小中学校支援教室等へのチラシ配布 ○広報ざまや市ホームページへの記事掲載 ○市公式LINEを活用しての情報配信 ○市が管理する手段を活用して広報<手段> ①広報ざま、②市ホームページ、③市公式LINE、④庁内放送、⑤市公式Youtube⑥プレスリリース<内容ごとに活用した手段> 夏休みアート体験講座①②③⑥ アート展作品募集①②③⑤⑥ アート展①②③④⑤⑥ ○イオンデジタルサイネージを活用し、アート展の作品募集、開催を広報

		<p>○校長会にて本事業の周知 本事業に係る会場運営及び当日運営補助</p> <p>○会場準備及び片付け ○開催会場への同行と補助 その他</p> <p>○要項、チラシ・ポスター等の確認</p>
--	--	---

項目	【団体の自己評価】	【市の自己評価】
適正さ	<p>役割分担は適正なものでしたか。</p> <p>全体の業務量は圧倒的に団体の方が多かったが、それだけに達成感は大きかった。市としても施設や参加市民との交流の場にもっと参加できる時間をとってもらえれば、本事業の達成感がさらに共有できて良かったのではないかと思う。</p>	<p>団体のみでは難しい事柄を、主に市が担うことができ、協働による効果を感じた。</p> <p>事業の調整、準備等に膨大な時間を要することもあり、業務負担に関しては、課題となった。今後は、お互いの能力、特性を理解し適正な役割分担を図りたい。</p>
実施結果	<p>設定した役割分担を果すことができましたか。</p> <p>決めた業務内容と日程遵守は、全て果すことができた。</p>	<p>市公式LINEや広報ざままで、本事業を知ったという人もいたことから、市が市民への周知を担うという役割は、ある程度、果たすことができたと感じている。また、昨年度から拡大して、イオンモール座間デジタルサイネージ掲載を1回から2回、ざまユニバーサルアート展会場紹介動画の公開を行うことができた。</p>
協働による効果	<p>それぞれが単独で実施する以上の成果を上げることができましたか。</p> <p>単独では見落としがちな内容やLINE広報などは、団体単独ではできず、多くの参加者拡大につながる事ができた。</p>	<p>団体では不可能と思われる規模での周知を当課が行い、団体が今までに実施してきた経験を踏まえて事業を進めることができたことから、単独で実施する以上の成果を上げることができたと考える。</p>

4 今後の具体的な展開

<p>事業の波及効果</p>	<p>今後、実施事業をどのような形で展開していくことが望ましいと思いますか。</p>	
	<p>(団体の考え)</p> <p>出前アート体験講座は子どもの参加がまだ少ないので、さらに児童福祉施設にも働きかけ、夏休みのレクリエーションの一つとして参加しやすい機会の提供を図っていきたい。又作品の発表の場も、ざまユニバーサルアート展の他に市内民間企業へさらに働きかけ、まちなかアート展として、発表の機会を増やしていきたい。市の後援だけではなく、協力・協賛していただける企業や福祉施設を増やし、市全体で支える事業へ展開していくことが望ましいと考える。</p>	<p>(市の考え)</p> <p>本事業の認知度、信頼度の確立が図ることができ、団体での活動の幅が拡大されたと考える。</p> <p>次年度以降は、お互いの能力、特性を理解し、発揮し合いながら連携及び協力して、事業を展開していくことが望ましい。</p>